

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	欧州経営史学会（the European Business History Association）年次大会での研究発表： 国民医療制度からの逸脱：新興国における国際病院の台頭（1990年代以降）
氏名 Name	NADIRE SILAMUJIANG（ナディレ・イスラムジャン）
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	経済学研究科・経済学・修士課程・2年生
渡航国 Country	ベルギー・ブリュッセル
渡航日程 Travel schedule	2025年6月24日～2025年6月30日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

2025年6月26日から28日にかけて、ベルギー・ブリュッセルで開催された European Business History Association（EBHA）年次大会に参加し、口頭発表を行った。

本発表では、「医療ツーリズム」および「グローバル病院」の台頭という近年注目される現象を、医療サービス産業の国際化という視点から捉え、その歴史的展開について経営史の立場から考察した研究成果を報告した。

従来、医療産業の国際化研究は製薬や医療機器分野を中心に展開されてきた一方で、医療サービス、とりわけ病院の越境的な展開に関しては十分な分析が行われてこなかった。本発表を通じて、医療産業史およびサービス産業のグローバル化に関心を持つ研究者との意見交換を行い、理論的・実証的な視点を広げることを目的とした。

成果 Outcome

本渡航を通じて、以下のような具体的な成果を得た。

初日には開幕式とセッションに参加し、会場内で多数の研究者と交流を行った。コーヒープレイク等を活用して意見交換を重ね、半年ごとに研究の進捗を共有し合うオンラインミーティングの実施も合意された。

2日目には自身の発表を無事に終え、参加者から想定以上の関心と建設的なコメントを受け

た。特に、供給側に偏りがちな既存研究に対し、需要側の視点や、量的な資料による補完の重要性が指摘され、今後の研究の方向性を見直す上で極めて有益な示唆となった。

3日目には経営史の方法論に関するセッションに多く参加し、分析枠組みや理論的視座に関して新たな視点を得ることができた。夜の Gala Dinner では、経営史を専門とする海外の研究者とも対話の機会を持ち、研究への強い関心と今後の学術的交流に対する前向きな姿勢が示された。

このように、本渡航を通じて以下の目標を達成した：

- ・ 国際学会にて自身の研究を発表し、当該分野における最新動向とフィードバックを得た。
- ・ 医療サービスの国際化に関する研究の視点や方法を見直す契機を得た。
- ・ 同分野に関心を持つ研究者とのネットワークを構築し、今後の共同研究の可能性を広げた。



今後の展望 Prospects for the future

本学会で得たフィードバックをもとに、現在準備を進めている修士論文をさらに洗練させ、2025年12月に予定されている日本経営史学会での発表を目指す。今回の国際発表は、そのプロセスにおける重要なステップとなり、学術的自信と今後の課題意識の両方を得る貴重な機会となった。

また、渡航中に得られた人的ネットワークを今後も活用し、とくにバルセロナ大学の Paloma Fernández Pérez 教授をはじめとする医療産業史分野の研究者との対話を継続しながら、日本を拠点としつつ多角的な視点から研究を発展させる体制を構築していく予定である。加えて、

黒澤教授の指導のもと、研究成果を国際的な学術誌への投稿につなげる準備も進めている。

2026年4月からは博士課程に進学し、これまでの研究成果を踏まえて、医療サービス産業における対外直接投資（FDI）に関するテーマを中心に、医療のグローバル化を制度的・歴史的な視点から引き続き探究していく。対象地域や事例の選定については今後の検討を経て決定する予定であり、より理論的かつ比較的な枠組みの中で分析を深めていくことを目指す。